

令和2年8月10日号 (第210回)

# 阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

今回の阿伎留通信は、「**歯科口腔外科のご紹介**」をテーマに、歯科口腔外科の金子允子 医師よりお話しさせていただきます。

## ● 歯科口腔外科の分類と扱う疾患

歯科口腔外科とは口腔（こうくう：口の中）、顎（がく：あご）、顔面などに現れる先天性および後天性の疾患を扱う診療科です。

歯科口腔外科領域は大きく4つに分類できます。

1つ目は、親知らずなど難しい歯の抜歯や、顎骨内や口腔粘膜に発生する嚢胞（のうほう）や腫瘍、癌の摘出術、交通事故やスポーツなどによる口の中や顔面の外傷などの治療といった外科的な治療です。

2つ目は、顎関節症、口腔粘膜疾患（口内炎など）、炎症性疾患（口腔内周囲の炎症、膿瘍など）、舌痛などに対する内科的な治療です。歯科口腔外科は口の中、顎周囲の健康をトータルサポートする診療科でもあるため、こうした治療も行います。

3つ目は、インプラント埋入術、顎顔面奇形（口唇裂、口蓋裂）の手術、顎変形症（歯列不正）の手術など顎顔面の機能と審美の回復を目的にした外科治療です。

4つ目は、全身疾患（3大成人病、血液疾患、皮膚疾患など）と関連、または合併がある口腔疾患について診断し、医科と連携をはかりながら総合的な診療をします。

これらの領域の異常は食事や発音・会話がうまくできないなどの機能的な障害に加え、審美的な障害も生じます。治療により口腔・顎・顔面全体の自然な形態や機能が回復することにより顔全体がいきいきとし、健康的な美しさを取り戻すなどのお手伝いをすることができるのです。

また歯科口腔外科の中でもさらに専門的治療を必要とする主な疾患として、顎骨口腔領域の軟組織や顎骨に発生する腫瘍（良性腫瘍及び悪性腫瘍）があります。



口腔内の悪性腫瘍の大部分は癌腫で舌癌、歯肉癌（下顎死肉癌、上顎歯肉癌）、口底癌、頬粘膜癌が多くみられます。この領域の悪性腫瘍は咀嚼（そしゃく：かみ砕くこと）、嚥下（えんげ：飲み込むこと）、発音などの機能にかかわる疾患でその治療には機能の温存のみでなく整容的な面を考えた治療が必要です。そのため腫瘍切除後には機能的・形態的再建手術が必要になる場合があります。

## ● 公立阿伎留医療センターの歯科口腔外科のご紹介

歯科口腔外科の疾患について述べてきましたが、続いて当医療センターの歯科口腔外科についてご紹介したいと思います。

歯科口腔外科は歯科医師2名、歯科衛生士常勤2名、非常勤2名の計6名で構成されています。

診療時間は平日の9時00分～17時15分（午後は予約患者、入院

患者の診療のみ）であり、外来診療は一般の歯科医院では困難な難

度の高い親知らずの抜歯、全身疾患のため処置を行うにはリスクが

高いと思われる患者さんの抜歯、外傷など外科的な治療を行うのは

もちろんのこと、ごく普通の虫歯、入れ歯、歯周病などの一般的な

歯科治療も行っています。ただし、すべての患者さんに一般的な

歯科治療を行っているわけではありません。もともとかかりつけ歯科

医院がなく歯科治療の緊急性が高い患者さん、何らかの理由でかかりつけ歯科医院での治療が継続できない患者さんなどは当科で歯科治療を行っていますが、基本的には自宅近隣で通院しやすい環境でかかりつけ歯科医院を見つけることをお勧めしています。



また、前述にあるように専門的治療を必要とする悪性腫瘍など、入院・手術を必要とする患者さんの治療も行っています。

歯科口腔外科について少しでもご理解いただけたでしょうか？状況により一般的な歯科医院を受診したほうが良いのか、歯科口腔外科を受診したほうが良いのか迷ってしまう場合もあると思います。ご自身で判断がつかない場合は、まずはかかりつけ歯科医院がある方はかかりつけ歯科医院を受診することをおすすめします。歯科医院で対応できる症状なのか判断してもらい、専門的な治療が必要となった場合は、当医療センターの歯科口腔外科を受診してください。また、かかりつけ歯科医院がない方の当医療センター歯科口腔外科での受診もお待ちしています。

阿伎留通信については、バックナンバーを公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)